

抄 録

第58回鹿児島県公衆衛生学会 口頭発表

〔平成28年5月20日 鹿児島市〕

マダニの重症熱性血小板減少症候群
(SFTS) ウイルスの保有状況等に関する
調査研究

岩元 由佳 中堂園文子 穂積 和佳
山本 真実 石谷 完二¹ 御供田睦代
西 宣行²

SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は、平成23年に初めて特定されたウイルス感染症で、主にそのウイルスを持っているマダニに刺されることにより感染する。平成25年4月に県内初の患者が確認されて以降、平成28年1月27日までに15名の報告があることから、県内のマダニの分布状況やSFTSウイルス保有状況の調査を3年計画で実施している。

平成26年度の1年間の調査で2属10種3118匹のマダニが採集できた。フタトゲチマダニの採集数が最も多く、次いで、キチマダニ、タカサゴチマダニの順であった。この3種は、全体の採集数の約80%を占めた。また、SFTSウイルス遺伝子検出については、2属10種1040検体の検査を実施し、2属5種20検体のマダニからSFTSウイルス遺伝子が検出された。陽性率は、1.9%であった。

マダニの分布状況や季節消長及びSFTSウイルス保有状況を把握するためには、さらなるデータ集積が必要であることから、今後も調査を継続していく。

1 始良・伊佐地域振興局 2 南薩地域振興局

鹿児島県におけるヒトのSFTSウイルス
抗体保有状況について

御供田睦代 中堂園文子 岩元 由佳
山本 真実 穂積 和佳 石谷 完二¹
西 宣行²

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、2011年に初めて確認された新しいウイルス感染症で、主にそのウイルスを持っているマダニに刺されることによって引き起

こされる。

鹿児島県においては、2013年4月に第1例目の患者が発生し、2016年2月8日までに15名の患者が発生し5名が死亡している。

2015年7月13日～10月2日に狩猟関係者及び森林組合、役場職員等228人の採血を行い、ELISA法によるSFTSウイルス抗体検査を実施した。狩猟関係者等のSFTSウイルス抗体保有者は125人中2人(約1.6%)で役場職員103人中1人(約1.0%)であった。SFTSウイルス抗体保有者は少なく、鹿児島県では、マダニが一年を通して確認されることから、感染する機会も多いと考えられ、今後も感染予防対策について十分な普及啓発が必要である。

1 始良・伊佐地域振興局 2 南薩地域振興局

過去5年間の鹿児島県におけるつつが虫病
の発生状況および臨床症状の解析

中堂園文子 岩元 由佳 穂積 和佳
山本 真実 石谷 完二¹ 御供田睦代
西 宣行²

つつが虫病は、*Orientia tsutsugamushi*を保有するツツガムシに刺されることにより、また日本紅斑熱は、*Rickettsia japonica*を保有するマダニに刺されることにより感染する熱性発疹性疾患である。本県では両疾患とも届出数が多いことから、つつが虫病予防対策事業として、つつが虫病および日本紅斑熱の血清抗体検査を行っている。その検査結果と、検体と同時に提出するつつが虫病検査依頼書に記入された情報について解析を行った。

抗体陽性者は両疾患ともに、高齢者に多く、農作業等野外での活動を行った者に多い傾向にあった。また、主な症状である発熱・発疹・刺し口のいずれかを「有り」とした者が大半を占めた。

急性期血清の抗体検査で判定保留となり、その後、回復期血清が提出されていない症例は約44%であった。確実な診断を行うためにはペア血清による抗体検査が重要であると考えられた。

つつが虫病抗体検査の検査件数は増加傾向にあり、ダニ媒介性疾患への関心が高まったことが一因として考えられる。長袖長ズボンの着用等によりダニ刺咬を防ぐこと等、継続した啓発が重要であると考えられた。

1 始良・伊佐地域振興局 2 南薩地域振興局

鹿児島県における感染症の流行と気候変動の影響について

石谷 完二¹ 穂積 和佳 中堂園文子
岩元 由佳 山本 真実 御供田睦代
西 宣行²

1890年から2014年までの鹿児島地方気象台における平均気温の経年変化は1.99℃上昇と温暖化現象が進んでいるとの報告がある。また、屋久杉の年輪炭素同位体から得られた過去2000年における気温変動のデータ推移をみると、16～17世紀にかけて寒冷化の時期が認められる。日本では江戸時代の大飢饉により感染症が発生し、世界ではペストの大流行がヨーロッパ全土で繰り返していった時代とほぼ重なっており、感染症の流行と気候変動は密接な関係にあると考えられる。

今回、インフルエンザ、感染性胃腸炎の感染症の流行と気温、湿度、気圧、降水量等の気候変動の影響について、特異的な流行パターンを呈したシーズンを選定し、解析を行った。

1 始良・伊佐地域振興局 2 南薩地域振興局

フグ食中毒事例における環境保健センターの検査対応について

臼井 力 茶屋 真弓 松岡さゆり
清川 由樹 吉田 純一 西 宣行¹

鹿児島県の過去のフグによる食中毒事例における当センターの検査対応状況を整理するとともに、検査機能強化を図る目的で健常者の尿を用いてフグ毒テトロドトキシン（以下「TTX」という。）分析を試みた。

2008年以降、フグ食中毒事例で検査試料の確保ができた場合には機器分析や動物試験を実施し、フグ毒同定や病因物質の特定に寄与してきた。また、2015年11月にフグ食中毒が発生し、患者嘔吐物のTTX分析を実施したところ0.29μg/g検出された。

尿中のTTX添加回収試験を実施した結果、精製法に検討の余地はあるものの、TTX分析法の定量性を確認することができた。

1 南薩地域振興局

衛生微生物技術協議会第37回研究会 口頭発表

〔平成28年 7月22日 広島市〕

鹿児島県におけるヒトのSFTSウイルス抗体保有状況について

御供田睦代 西 宣行¹ 大坪充寛

（内容は、第58回鹿児島県公衆衛生学会と同じ）

1 南薩地域振興局

第42回九州衛生環境技術協議会 口頭発表

〔平成28年10月13日 福岡市〕

過去5年間の鹿児島県におけるつつが虫病の発生状況および臨床症状の解析

中堂園文子 岩元 由佳 穂積 和佳
山本 真実 石谷 完二¹ 御供田睦代
西 宣行²

（内容は第58回鹿児島県公衆衛生学会と同じ）

1 始良・伊佐地域振興局 2 南薩地域振興局

鹿児島県で発生したレジオネラ事例について

穂積 和佳 中山浩一郎 中堂園文子
岩元 由佳 浦元 千織 御供田睦代

平成28年4月にレジオネラ症の届出があり、患者喀痰と関連温泉施設A館の温泉浴槽水から*L. pneumophila* SG1が検出された。これらの分離株について、当センターで昨年度から検討していた常らの改良による2日間のPFGE法を用い遺伝子解析を行ったところ、患者分離株と浴槽水分離株の遺伝子パターンが一致し、今回の事例は、温泉施設A館を原因施設としたレジオネラ感染症と推測された。

しらす干しの天然由来の過酸化水素含有量について

松岡さゆり

食品衛生法に基づく添加物の使用基準において過酸化水素は「最終食品の完成前に分解又は除去しなければならない」と定められている。しかし釜揚げしらす及びしらす干しにあっては $5\mu\text{g/g}$ 以上残留してはならないと改正の検討がなされている（2016年10月27日に改正された。）そこで原料の生しらすやしらす干しの製造工程における過酸化水素含量の検討等を行った。

生しらすには平均 $2.5\mu\text{g/g}$ の過酸化水素が検出された。擬似的に作成したしらす干しは、乾燥が増すごとに値が高くなったが、乾燥の影響を取り除いて比較すると天日乾燥の方が若干低い値だった。また、釜ゆで前に流水洗浄すると値が減少した。

今回の検討において過酸化水素を使用せずに製造しても原料や製造条件、保存条件によっては $5.0\mu\text{g/g}$ を容易に超え得ることが推測された。今後は、製造工程における諸条件及び製造後の保存条件等について配慮し、市場流通段階での過酸化水素の低減化を検討する必要性もある。

全国大気汚染防止連絡協議会第62回全国大会 口頭発表 〔平成28年11月11日 鹿児島市〕

口永良部島における二酸化硫黄濃度について

田知行紘太

口永良部島は、屋久島の北西約17kmに位置する島である。平成26年8月に口永良部島新岳付近で34年ぶりに噴火が発生し、噴火警戒レベルが1（平常）から3（入山規制）に引き上げられた。また、平成27年5月には新岳で爆発的噴火が発生し、噴火警戒レベルが3から5（避難）に引き上げられ、全島民が島外へ避難する事態となった。

噴火に伴い発生する二酸化硫黄により、住民の健康への影響が懸念されたことから、当県では平成26年9月に口永良部島出張所に二酸化硫黄自動測定機を設置し、濃度測定を行っている。

平成26年度から27年度までの二酸化硫黄濃度1時間値の1日平均値は、桜島の影響を強く受けていると考えられる赤水局及び有村局と比較すると、低い濃度であった。また、1か月のうち環境基準を達成しなかった日数は、平成27年5月の噴火以降減少した。

口永良部島出張所における二酸化硫黄濃度は、新岳における二酸化硫黄放出量の影響を受けるが、風向きによっても変動すると考えられた。

第75回日本公衆衛生学会 ポスター発表 〔平成28年10月27日 大阪市〕

マダニの重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) ウイルスの保有状況等に関する 調査研究

岩元 由佳 御供田睦代 大坪 充寛

(内容は第58回鹿児島県公衆衛生学会総会と同じ)